

ボランティアの
編集委員が
つくっています



バックナンバーをWebにて公開中

芝情報誌

検索

SHIBA-TAG

しばタグ

歴史探訪

江戸子版画家 川瀬巴水

令和5年(2023)4月のテレビ「開運!なんでも鑑定団」で、川瀬巴水(1883-1957)の
版画初摺り47点、水彩画3点で7,600万円の値段が付きました。
関東大震災(1923)後の復興時の新橋驛、愛宕山、芝大門などのスケッチを残しています。



（筆水巴瀬川）驛橋新

新橋驛

『日本及日本人』(1月1日號)
(64)、政教社、1925-01
国立国会図書館デジタル
コレクション
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1596993>

若旦那

父、川瀬庄兵衛は第三回内国勲業博覧会に於いて窓掛飾総で三等進歩賞、洋傘飾総で褒状をもらう腕前の糸組物職人で、新橋から源助町、柴井町(新橋四丁目～六丁目)、芝大門に抜ける日蔭町通り、明治時代古着屋、靴屋などで賑わう道すじの露月町36番地(現新橋五丁目6)で商売を営み、長男として川瀬文治郎(巴水)は明治16年(1883)に生まれました。桜川小学校に入り、商売より絵が好きで芝神明の画家に習います。草履に和服角帯の洒落た文治郎は、25歳で入門を希望した日本画家 楠木清方(1878-1972)の勧めで溜池白馬会 葵橋洋画

研究所に通い、2年後に弟子になります。清方が納絵小学校と間違え巴の字を使い、「川瀬の川に因んで」、画号を「巴水」と命名されました。

巴水は、銀座「白牡丹」で帯留などの図案を画き、小説に挿絵などを描いていました。愛宕下四丁目(新橋五、六丁目近辺)で転居をしながら、大正6年(1917)に34歳で結婚します。

浮世絵から新版画の制作を目指す銀座の版画家、渡邊庄三郎(1885-1962)を前年に知り、巴水は新版画制作へと向かいます。巴水は、伯母が住む栃木県「塩原おかね路」などの風景新版画を35歳で版行し、人気を得ました。44歳で大田区に転居後「馬込の月」などを制作し、自らも旅行を好み、「旅情詩人」といわれ、日本



新橋驛スケッチ部分 「大田区立郷土博物館所蔵」

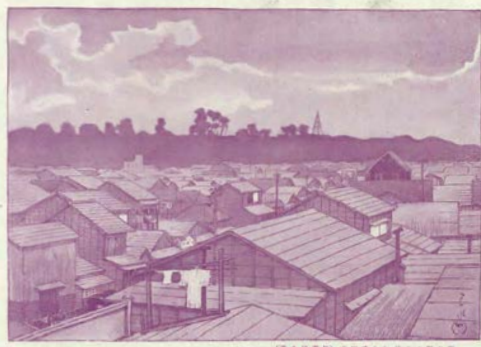
全国各地と韓国を含む風景新版画を創作しました。現代の歌川広重ともいわれています。

芝地区近辺の愛宕山、増上寺、芝公園、芝大門、芝恩賜公園などの作品があります。

(2面へ続く)

●[歴史探訪] 江戸子版画家 川瀬巴水	P1
●[とらここ] 氷屋純氷 株式会社 飯倉商会	P3
●[芝の老舗] うなぎの小ノ孝	P4
●[Shiba Topics] 地域防災と芝公園の防災機能	P5
●[キッズみらいルポ] スポーカル三田	P6

●生涯学習センター(ばるーん)	P7
●[芝の家・ちゃぶ台日誌] 春編	P7
●[芝地区さんぽまんが] しばテク ～芝地区テクテク～③	P8
●愛宕警察署からのお知らせ	P8



露月町より見たる愛宕山
『日本及日本人』(1月1日號)(64),
政教社,1925-01.
国立国会図書館デジタルコレクション
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1596993>



露月町より見たる愛宕山スケッチ
「大田区立郷土博物館所蔵」



芝大門
『日本及日本人』(1月1日號)(64),
政教社,1925-01.
国立国会図書館デジタルコレクション
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1596993>



芝大門スケッチ
「大田区立郷土博物館所蔵」

新版画

版元渡邊庄三郎の目指した新版画は、「版元」の提唱で画家の絵を下絵として「画家」が「彫り」、「摺り」、「色決め」にも参加し、版画に画家の意図を表現する近代芸術です。

巴水は「純然たる版画家です」と言い、絵と違い新版画の景色は「簡単に居て面白み」があり、その「簡単な構図の中」、「・・・いろいろの変化で、朝にも夕方にも、雪にも雨にもなるのが、また版画の面白味である」とし、画中の人物に地元感を表しました。

巴水は、「生粋の江戸子」、「芝で生まれて版画^{※1}で育ち」と粋がり、「でこぼこ文ちゃん」と呼ばれるなど、他人からは世の中のことを気にしない性格とみられている事を自覚していましたが、巴水は正反對に「静寂な雅趣」で「落付いた淋しみの翳濃いものを好みま」した。この深い淋しさは、家業を継がせようとする圧力や、絵に憧れ、少年期に周囲に馴染めないなどの心の葛藤に巴水の繊細な感受性が反応したからでしょう。

花街の烏森、繁華街の大門、銀座に近く、「義理と人情とやせ我慢」の露月町の芝っ子若旦那は、酒を好み、母や伯父で戯作者の仮名垣魯文が好きだった義太夫、落語、歌舞伎などの喜怒哀

哀楽の情の世界に馴染み、巴水はその才覚で新版画の「粋」な情の美の芸術を創りました。大正10年(1921) 渡邊は、巴水を「板畫家」という芸術家の名称と呼びました。

42歳、「東京二十景」の中の「芝増上寺」の新版画はヒットし、大家となります。白雪の増上寺の閉じられた朱漆の三解脱門^{※2}、身をつつむ黒の和装雨コート、襦袢と裾回のわずかな赤に燃える情念を秘めた女人の難儀、たおやかさを写し取っています。当時の芝界隈の女人、色合い、風情ですが、関東大震災後でもあり難儀さが人々の共感を得ました。

修行僧

大正12年(1923)の震災で露月町の家が焼け、増上寺に避難した巴水は、写生帖を失いましたが、露月町近辺に戻り写生をしています。

大正14年(1925)、「東京復興百景」に「新橋驛」、「露月町より見たる愛宕山」、「芝浦海岸」、「芝大門」の4枚のスケッチが含まれています。

「新橋驛」、烏森口の駅前にマント、手提げ洋靴、丸眼鏡の巴水が登場し、駅舎は壊れたが震災に耐えた高架鉄道の8mアーチ煉瓦橋上のプラットフォームの人物が際立っています。

「露月町より見たる愛宕山」、大正14年1月に建っているNHKの電波塔がすっきりと、露月町の木造家屋の単純化した屋並みに洗濯干場などの生活を描いています。

「芝大門」、江戸時代江戸名所といわれ、芝大門に雪を降らせ伝統の芝の美を伝えています。

この頃、全盛期を迎えつつある巴水は、「芝」の復興を伝えています。

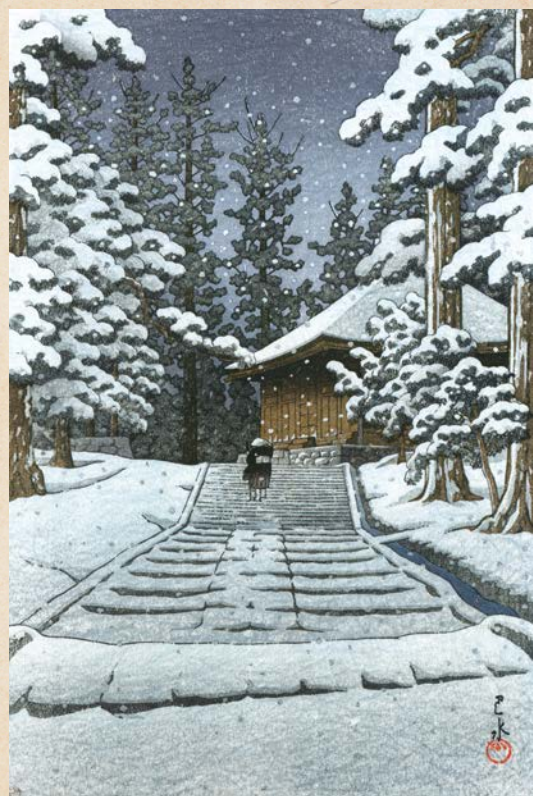
昭和27年(1952)に文部省は、木版画の制作の記録を無形文化財技術として永久に残すために川瀬巴水と伊藤深水、版元の渡邊庄三郎らを招聘しました。

巴水は、妻と養女が雪の都電停留所にたたずんでいる「増上寺の雪」を創りました。

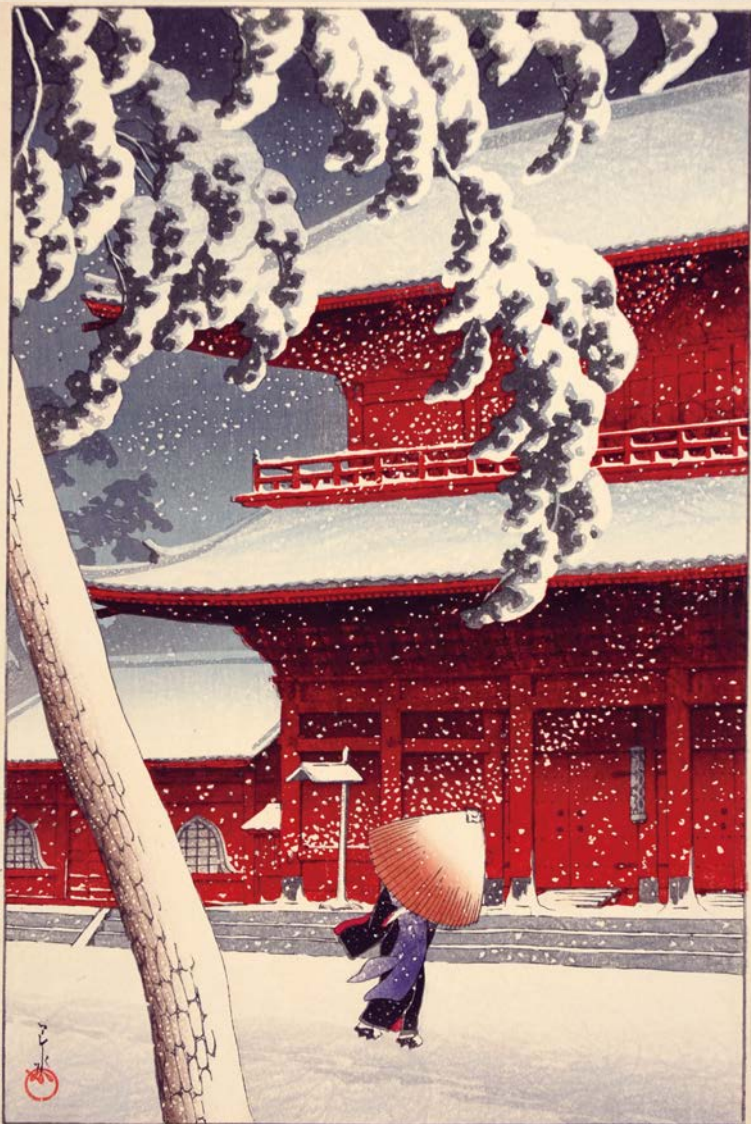
その後、74歳で生涯を終えました。

絶筆「平泉金色堂」は、雪降る森の金色堂に向かう網代笠、墨染衣、白脚絆の雲水が描かれ、それが巴水ではといわれています。若旦那は修行僧となり、江戸子の「粋」な情の美を新版画に残しました。

文：森明



平泉金色堂



東京二十景 芝増上寺 「港区立郷土歴史館所蔵」

※1 神田をもじる

※2 三解脱門は、むさぼり、いかり、おろかさの3つの煩惱から解き放たれること

協力

大田区立郷土博物館 学芸員 真坂オリエ/NHK放送博物館館長 川村誠

港区立郷土歴史館 川上悠介、神谷蘭ノアトリエヤマガタ 安彦克己、仁子ノ丁子屋 小林絵里

文中敬称略

参考

港区-デジタル版 港区のあゆみ-新修港区史<https://adeac.jp/minato-city/top/>

渡辺規編 渡辺庄三郎 渡辺木版美術画舗 国立国会図書館デジタルコレクション

井上和雄編 渡邊庄三郎校訂 浮世絵師傳 渡邊版画店 国立国会図書館デジタルコレクション

日本及日本人 第六十四号 正教社 静岡県立中央図書 国立国会図書館デジタルコレクション

大田区立郷土博物館 第1〜15回 川瀬巴水

学芸員コラムhttps://www.city.ota.tokyo.jp/seikatsu/manabu/hakubutsukan/kawasehasui_koramu/index.html

大田区立郷土博物館 旅情詩人 大正・昭和の風景版画家 川瀬巴水

渡辺規編 植崎宗重解説 川瀬巴水木版画集 毎日新聞社

川瀬巴水著 川瀬巴水 創作版画解説、版画の旅、半雅堂隨筆 川瀬巴水木版画集所収 阿部出版

家田奈穂編集 川瀬巴水展 平塚市美術館

岩切信一郎監修 川瀬巴水 旅の郷愁の風景 ステップ・イースト

鏡木清方記念美術館 鏡木清方の系譜 師水野年方から清方の弟子たちへ

渡邊章一郎 連載「浮世絵隨談」渡邊版画店に伝わる川瀬巴水の逸話 浮世絵芸術 1532007 p.82-8

鈴木昇 川瀬巴水と私物語 (株)ニフティー

西山純子他編 新版画一進化系UKIYO-Eの美 日本経済新聞社

江戸東京博物館 よみがえる浮世絵—うらわしの大正新版画

港区立郷土資料館編 増補近代沿革図集 新橋・愛宕・虎ノ門・芝公園・芝大門・浜松町・海岸 港区教育委員会

増上寺 <https://www.zojoji.or.jp/treasure>

内国勲業博覧会事務局 第三回内国勲業博覧会褒賞授与人名録 P10、P53、明23.7.

国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/801912>

虎ノ門でここだけ！

とらここ

TORAKOKO

神谷町交差点から御成門方面へ30mほどのところに、氷屋純氷「飯倉商会」があります。職人さんが忙しく作業をしている店内にお邪魔しました。

取材・文：伊藤 早苗

歴史ある老舗の氷屋「飯倉商会」

約100年続く老舗

3代目社長の町田和之さんにお話を伺いました。初代（現社長の祖父）は昭和2年（1927）、飯倉に氷屋を開店しました。ほどなく、支店を神谷町（現虎ノ門）に出し、再開発により昭和59年（1984）、現在の地に移転しました。町田社長は以前の店舗の階上に住み、子どもの頃から2代目社長（現社長の父）の仕事を見て育ちました。



3代目社長
町田和之さん

カット前の純氷。毎日40本以上が入荷



さまざまな形状に
カットした純氷



都内の氷屋の数は？

最盛期には都内に2000軒ほどあった氷屋も、昭和35年（1960）頃から徐々に減り、今は100軒程度とのことです。港区には4軒ほどの同業者があり、「今では珍しい業種」となっています。家庭に「電気冷蔵庫」が普及したのも減少の一因のようです。

地域柄、顧客は銀座・赤坂・六本木・西麻布そして地元の虎ノ門の飲食店がほとんどです。

社長こだわりの「純氷」とはどんな氷でしょう？

都内に数か所ある製氷会社から仕入れている『純氷』とは、水の中にあるミネラル、カルキなどの不純物をRO膜でろ過し『仕込み水』にします。この『仕込み水』を100cm×54cm×27cmの大きさの缶に入れて、マイナス10℃の塩水のなかに缶ごと浸けて凍らせます。48時間かけて周りからゆっくり凍らせることにより、限りなく透明で無味無臭固く溶けにくい氷ができます。中心の「芯」の残り方によって、氷の良し悪しを見分けるので、仕入れの時は社長自らチェックに入ります。

「氷の目利き」は氷を作る際の中心の「芯」の残り方によって、品質を判断しているわけです。高級飲食店での「水割り」を作るには「純氷」の質の良い氷に限るのは、このような理由からです。

飯倉商会の「目利きが認めた水の心だけが宿る氷」をグラスに入れて味わってみてはいかがでしょうか？



店の奥にはカットされた純氷がぎっしり

家庭向けに販売している「単ごもり氷」。ロック用、キューブ、スティック、かわりがパックされている



「純氷」の入った水割り

虎ノ門 豆知識

- RO膜：ろ過膜の一種。イオンや塩類など水以外の不純物は透過しない性質を持つ膜のこと。孔の大きさは2nm以下（nmとは1mmの100万分の1）。
- RO水と天然水の違い：徹底的に不純物を取り除いた水を飲みたければRO水。天然のミネラルを含む水を飲みたければ天然水。
- 氷の性質：「氷」は匂いが付きやすいので、長時間家庭の冷蔵庫に保存せず、早めに使いきったほうが良い。

*おまけ：男性は飲食店のトイレを使用した際に、男性用便器の中に氷が入っているのを見たご記憶がおりでしょうか？アンモニアは氷に触れると、冷却され臭いが抑制されるために氷をいれています。

INFORMATION

氷屋純氷
株式会社 飯倉商会
〒105-0001 港区虎ノ門3-18-16
TEL 03-3431-5338
FAX 03-3431-5340
<https://iceshop-iikura.com/>



も芝の 丁老舗

うなぎ
鰻卸問屋ひとすじの伝統を守って

おのこう
うなぎの小ノ孝

都営三田線の芝公園駅から徒歩 6 分。落ち着いた雰囲気の「芝商店街」に、大正13年(1924)創業の老舗鰻卸問屋「小野孝商店」が営む「うなぎの小ノ孝」があります。

この辺りは、マンションや住宅とともに、西應寺をはじめとする歴史ある寺院、オフィス、飲食店などが点在し、交通アクセスもいいので、都心の中でも住みやすいエリアです。

行列のできる都心の隠れ家



日本庭園のような店先からモダンな黒の扉を開くと鰻がお出迎え

卸問屋の直営店による、リーズナブルな国産鰻が人気を博し、ランチタイムより一足早い 10 時半頃から、近隣の住民やビジネスマンが列を作り始めます。

営業は昼のみ。人気の「うな重定食 2800 円(2024 年 8 月〜)」は 1 日 30 食限定です。2 回転目で、ほぼ完売になります。

店内のエントランスには灯籠があり、日本庭園のよう。枝垂れ紅葉や、手入れの行き届いた草木が迎えます。取材時には、根っこから育てたという八重桜が可憐に花咲いていました。直線美と黒を基調にしたモノトーンのモダンな店構え。店内は杉無垢一枚板のカウンター 10 席、掘りごたつ式のテーブル 7 卓、テーブル席 2 卓。女性スタッフがテキパキと接客をしています。カウンター越しに、リズムカルに鰻を焼くのは、3 代目の小野孝一さん。

開店前に蒸籠で蒸しておいた串打ちした鰻を取り出し、焼台で 6 尾分の鰻を焼く、関東風です。



大人の隠れ家的な雰囲気醸し出している

伝統的な『鰻の蒲焼』を知ってほしい

稼業の鰻卸業を営む中、スーパーマーケットの鰻やチェーン店の鰻が昨今の主流になりつつあることを感じるようになりました。「目の前で焼く、鰻

の蒲焼を忘れてほしくない」「^{かつまん}活鰻業界を支えなくてはいけない」「日本の伝統的な『鰻の蒲焼』を少しでも多くの人に見せたい」と思い、平成 27 年(2015)自ら鰻を仕込み、注文と同時に目の前で焼き上げて提供する店を始めます。

仕入れた鰻から、基準サイズを外れるものを選び分け、自らが捌いて蒸します。

「たれ」は、うなぎの脂

と甘みを引き立てるために、醤油とみりんに少し砂糖を加えるという、小野さんの味を貫いています。

川魚問屋 小野孝商店の歩み

小野さんの祖父にあたる創業者の小野孝は、髪結いの母と競走馬の騎手の父のもと、横浜の元町で育ちました。高等科卒業後、親戚の石川萬次郎が営む川魚問屋の丸萬商店で修業に努めます。関東大震災の被災を機に、浜松町駅近くの芝区新綱町に川魚仲買問屋を独立開業。孝は 23 歳の秋、震災後の焼け跡にトタン葺平屋建ての店舗を借りました。台所と押し入れ付きの十畳間、八坪程セ



(左)昭和42年(1967)2月14日、東京に大雪が降った庭で小野孝と花子夫妻と3歳の孝一さん(右)昭和4年(1929)開業のうなぎ食堂のスケッチ



昭和42年(1967)6月、小野孝と花子夫妻で鰻を焼いている様子

メントで固めた流し場と二坪ほどの生簀^{いけす}を用意し、当時は少なかった電話を備えた小店舗からスタートしました。その後、何度か移転をし、浜松町で「うなぎ食堂」を営む時期があり、自転車操業の時代もありました。水揚げの少ない川魚は、戦時中に統制外同然の扱いを受け、商売が滞ることはありませんでした。さらに、戦後の売り手市場時代、これまで培った集荷技量と、孝の人間味が商売挽回の好機へ導きます。孝の「がんこ」と言われるまでの稼業に対する厳しい目利きと、妻・花子の内助^{ないじよ}之功^{のこう}が結晶となり、現在の芝二丁目に店舗を構え、三百坪以上の広さを持つ敷地を所有するまでになりました。昭和 42 年(1967)の業界紙「養魚タイムス」には、粋な和服姿の祖母、小野花子の写真が掲載され、良い鰻だけを扱い続ける意思を継いだ話がつづられています。

錦鯉が泳ぐ庭にあった灯籠や草木は、孫の小野さんが譲り受け、「小ノ孝」の店先や店内に活かしています。

水は商売上わが命と同じ

川魚を扱うには、井戸水が重要です。水道水は温度差があり、浄水の際に使用した薬品の残留が被害を出すこともあり、やむを得ない時のみ、短期間に限って使います。昼夜を通して放出する水と、生簀容器の朝夕の清掃水入れ替えと、水が果たす役割は大きいのです。店舗の奥には桶が積



蒸してから焼く関東風の鰻との相性を考え、天候に合わせて水分を控えめに炊いている白飯は北海道産

10月から5月にかけて提供する鰻の刺身。平目の縁側のような食感



み上げられ、産地から届いた卸の鰻が泳いでいます。建物の下には海水混じりの地下水が通っていて、それを汲み上げ 24 時間循環させ、卸の鰻が入った桶^{おけ}に水を落としています。

祖母の花子が言っていた職人の仕事は手に入った鰻を見極め、それに合った調理をしてお客さまに出すのが昔から仕事」というように、鰻はどれ一つとっても、一定ではないそうです。同じ時期と産地のものでも、捌いてみたり、蒸してみたりすることで、良し悪しを判断できるそうです。



届いたばかりの鰻は身が緩くなり太っているので、泥を吐かせ、筋トレをさせるように3日間かけて桶で泳がせてる。深さ60mの井戸水を活用

祖母の教えを守り

小野さんは、「お客を増やすのではなく、今いらっしゃるお客を大事にしたい」という祖母の花子の教えを守り続けています。「品質を守り、丁寧な仕事をしていれば、お客は離れない。だから手広い商売はしません。多くの人に目の前で焼く『蒲焼』を味わっていただきたい」という思いを貫いています。二十歳になる息子さんは跡を継ぐ意思を見せてくれているとのことです。芝に生まれ育った小野さんは、この街の歴史を誇りに感じています。小野さんが焼く活鰻は、誠実な心を未来へ紡いでいくことでしょう。

日本の食文化「蒲焼」を守り続ける小野孝一さん



取材：森 明、早川由紀
文：早川由紀

●参考文献「小野孝商店 65 年のあゆみ」鳥居印刷(株)印刷
綿貫芳雄編集

「小野孝商店創業 50 周年を迎えるに当たり元店員が綴る回顧録」

INFORMATION

うなぎの小ノ孝
〒105-0014 港区芝2-3-20
TEL 03-3453-6852

地域ぐるみの連携で防災に取り組む

～愛宕二の部地区防災会～

仲間の存在が活動の推進力

Q:地域連携の要は?

丸山さん:わたしの所属する「愛宕二の部地区防災会」は14町会(芝大門、浜松町、芝公園エリア)で構成され、増上寺や都立芝公園・区立芝公園も立地しています。

愛宕地区*には他に3つの協議会(愛宕一之部、愛宕三之部、愛宕四之部)がありますが、いずれも二の部地区同様に連合町会が中心となって組織されており、横の連携もあります。

手を携え、地域ぐるみで防災に取り組む上で心強いのが、小中学校の同級生や先輩・後輩たちで、縁の下の力持ちな存在となっています。災害時、地域において自力での避難が難しい方々を把握しており、避難体制を支えています。下町の付き合いで気心も知れており、防災活動の推進力となっています。

秋の防災訓練、300名超えの参加者

Q:防災訓練の内容は?

丸山さん:年に2回(春・秋)、消防・警察からも参加いただいて行っています。2月27日には神明いきいきプラザで、防災映像の視聴、マンホールトイレと応急水栓の設置訓練などを実施しました。

秋は都立芝公園・多目的運動広場で行っています。例年、参加者は300名を超えています。防災講習会、AEDの使い方、初期消火訓練、手作り防災グッズ作成のほか備蓄非常食(アルファ米)の炊き出し訓練も行います。訓練によって手順を知るとは大地震の時に冷静に落ち着いた行動をとる備えとなります。



初期消火訓練では消防署指導のもと実際に放水

愛宕二の部地区の防災訓練
AED講習会(2023年11月)

地域防災は日々の交流から

Q:丸山さんにとって防災活動とまちの変化は?

丸山さん:70年以上、芝で暮らしていると地域行事やイベントが生活の一部となっており、防災活動もやっているのが「普通」という感覚です。気付くと防災会会長は今年で11年目、芝大門中二町会会長は20年目になっていました(笑)。

再開発でまちの風景は変わりましたが、急激に変わった訳ではありません。まちは誰かが作るものではなく、段々と作られるものと思っています。

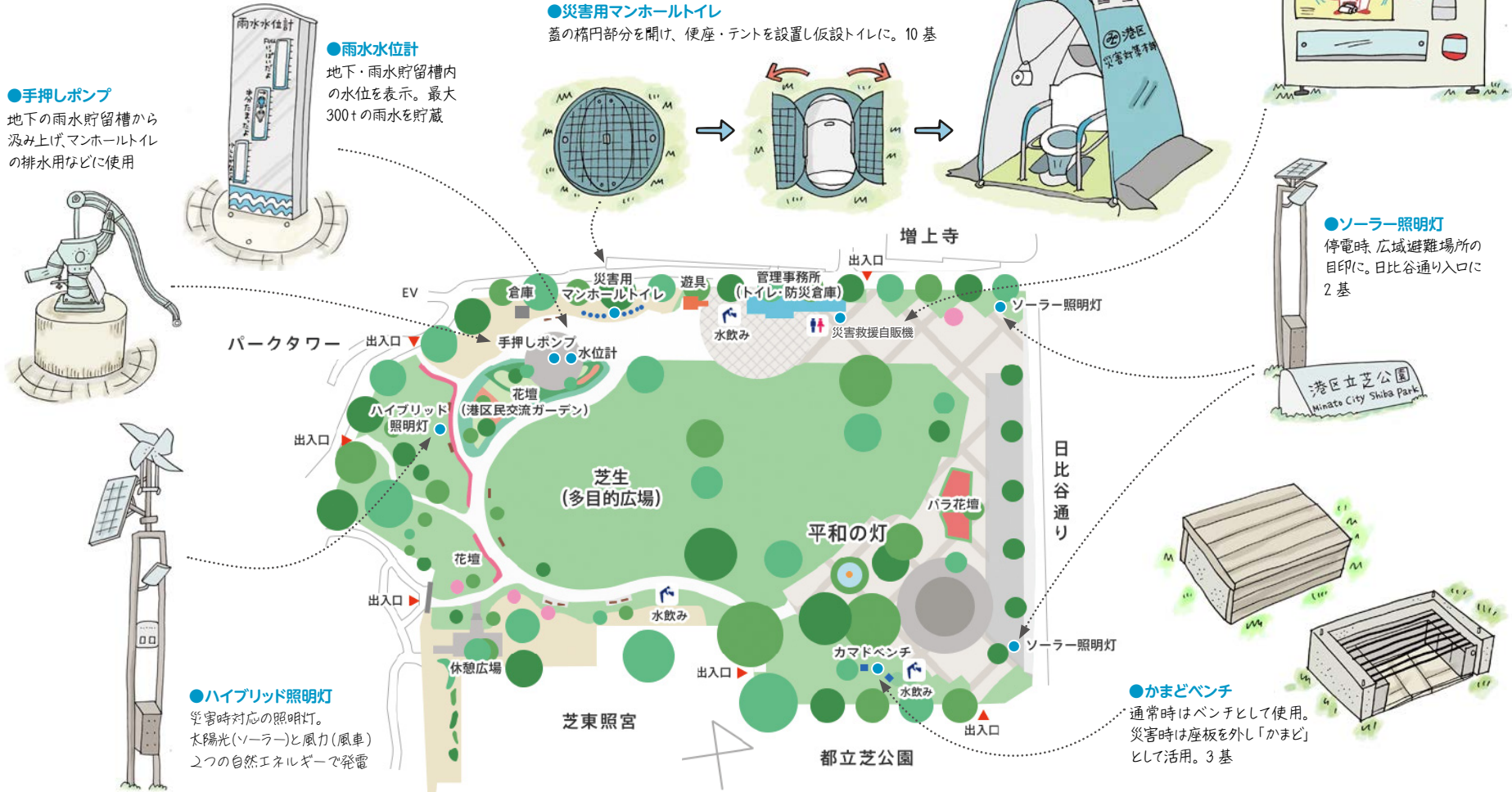
再開発により住民が転居していくのは寂しいですが、オフィスができれば今度は企業の人との付き合いが生まれます。わたしはまめに動く性なので顔見知りも増えるようで...実は、秋の防災訓練の参加者のうち半数は事業所の方々です。訓練とともに日々の交流は地域防災の大切な要素だと思っています。

*愛宕地区の防災協議会...愛宕一之部防災会(東新橋、新橋)、愛宕二の部地区防災会(芝公園、浜松町、芝大門、海岸)、愛宕三之部防災会連合会(西新橋)、愛宕四之部地区町会連合会(虎ノ門、愛宕)

取材・文:土岐 恵子
イラスト:逸見 チエコ

区立芝公園と防災

東京タワーを望むビュースポットで、散歩やピクニックも楽しめる港区立芝公園。公園は一方で防災公園としての役割も担っており、秋には総合防災訓練(芝会場)も行われます。マップ片手に園内を散策しながら防災機能をチェックしてみませんか。(図は2024年5月31日現在)



キッズ みらい ルポ

子ども歌舞伎のはじまり! はじまあ〜りい〜!!! 推しの「子ども歌舞伎」

港区総合型地域スポーツ・文化クラブ スポーカル三田

伝統芸能「歌舞伎」で観られる和の様式・動き・セリフを、
子どもたちに本格的に教えてくれると聞き、お稽古を訪ねました。



美しい帯も必須アイテム。



むねがドキドキ。藤娘。



お稽古前のみんな。ふむふむ。



藤の妖精さん達



先生が教えてくれるリズムに乗ってトントン♪



扇を手にすると本格的!

子どもたちは「アニメみたい〜」「着物を身に付けるとワクワクする!!」と、心が沸き立つ様子。お母さんたちは「あでやかな姿に興味津々です」「普段の立ち振る舞いがお上品になってきたみたい」と子どもたちの美しい成長を感じている様子。

見学したシーンは「藤娘の踊り」。発足して間もない子ども歌舞伎で、(わたしが思う)一番の見どころ。ひらひら揺れる花びらで、みんな「紫の妖精」みたい。子どもたちに無理のないようにアレンジされているので気負うことなく参加できます。



舞台を夢見る、かぶキッズ

INFORMATION

スポーカル三田(港区総合型地域スポーツ・文化クラブ三田)

アドレス:sporculmita@gmail.com

TEL 090-2151-0251(宇山)

<https://www.city.minato.tokyo.jp/sports/kodomo/sports/sogogata.html#mitaSP>

取材・文・写真・挿絵: 竹内 哲子



壹岐先生は多彩なアーティスト!

演目は講師の壹岐先生が、曾我兄弟や藤娘を題材に構成
アレンジした「^{いやさかえかぶきのはじまり}弥栄歌舞伎事始ヒーロー、ヒロイン大集合の巻」。

和服に着替え、正座して、扇子を膝前に、「本日のご来場
まことにありがとうございます」とあいさつしたら、お稽古のスタート。

和楽器のリズムに乗って「すり足」「見栄の切り方」「踊り」。
伝統的な動きを練習します。

歌舞伎の動きで 特に印象的な、口元に指を添えて
ちょっと首をかしげる涙のしぐさ。所作で心を伝える和の美しさ、
じんときます。

…と、ここで先生の紹介



壹岐達朗先生ってどんな人?

昭和30年(1955)鹿児島県生まれ。昭和52年(1977)藤間
流名取藤間文彰を取得。同年東京大学文学部国史学科卒業。
体験型の美しい日本文化を教えてくれるやさしい先生。近年
ミュージカルCAT'sを子ども歌舞伎でプロデュース。普段と違う
メイクや衣装をまとっている子どもたちの体調が心配でとても緊
張されたとか。日本文化の伝承と西洋演劇をコラボして国境を越
えた芸術活動もされており、企画や制作、演出の立場として関係
した作品が、文化庁芸術祭賞などを受賞したこともあります。

踊りはどうやって覚えるの?

先生はこんな感じ「右あんよトントン、左あんよトントン」「おひ
ぎトン、おひぎトン、シャキーン」舞を言葉にします。するとみん
な踊れるようになります。魔法みたい!



先生が台本の説明。みんな頑張ってる!



素敵な練習風景ですね。



藤娘の小道具。

……………編集委員の感想……………

今のところ発表の舞台は予定されていませんが、いつの日か「子ども歌舞伎」を披露する日を夢んでいます!藤娘の藤はその美しい姿や香りが邪気を払うとのこと、子どもたちの踊りで世の中の邪気が払われること間違いなし!

最後になりましたが、スポーカル三田のスタッフさん、ボランティアさん、ありがとうございました。音楽の操作、和服・帯の着脱、会場準備などこれからも頑張ってください!!!

スポーカル三田の
スタッフより

生涯学習センター

ばるーん

子どもから大人まで
楽しく学べる！



ばるーん外観

『港区立生涯学習センター(ばるーん)』は、サラリーマンの“まち”といわれる新橋駅から徒歩3分のところにあります。平成3年(1991)の統廃合により113年の歴史に終止符を打った旧桜田小学校を改修して、平成10年(1998)4月に開設された生涯学習の拠点となる施設です。

『桜田小学校』は、明治10年(1877)に設立された由緒正しき学校です。創立当時の寄付者名簿には、明治の偉人たちが名を連ねています。今でも、当時の資料の一部は、『桜田小学校記念室』に展示され、多くの卒業生が懐かしさから足を運ばれています。また、手洗い場や階段など小学校を感じさせる部分も残っています。

愛称の『ばるーん』は、区民の皆さんから名前を募り、「風船のように知識や技術や夢をふくらませていこう!」という気持ちが込められ、親しまれています。

現在、施設には、さまざまな学習活動に対応できるよう、広さや形態の異なる12の学習室とレクリエーションルームがあります。また、センター開館と同時に廃館になった『青年館』時代から活動している社会教育関係団体など、多くの団体が自主的な学習活動の拠点として利用しています。その他にも、区民が企画する『さくらだ学校』や、子どもの主体性を育む桜田学校課外授業など、高齢者から子どもまで

幅広い年齢層が参加できる主催講座を開催しています。

区より指定管理を受けている(公財)港区スポーツふれあい文化健康財団が発行している港区コミュニティ情報誌『キスポーツ』や生涯学習センター公式 SNS などをご覧いただき、新たな学習や活動を始めてみませんか？



桜田記念室



学習情報ルーム

事業の紹介

桜田学校課外授業は、子どもたちの自主性や主体性を高めるために、子ども自身が学びたいことを体験できる場を提供します。また、いろいろな人との交流を通して、生涯学習センターが子どもたちにとって安心して楽しく学べる居場所であることを、知ってもらおうねらいも持っています。今年の夏休みは、お金や貿易、世界遺産にまつわる講座などを、また来年の春休みには、自らが自由に遊ぶことができる「ばるーんプレーパーク」を開催します。みんなのやってみたいをやってみませんか？



令和5年度桜田学校課外授業
～夏休み企画～
「こども 世界遺産クイズ」



令和5年度桜田学校課外授業
～春休み企画～「ばるーんプレーパーク」

INFORMATION

生涯学習センター(ばるーん)

〒105-0004 港区新橋3-16-3

TEL 03-3431-1606 MAIL baloon@kissport.or.jp

<https://www.kissport.or.jp/sisetu/shogaigakusyu/guide/>



取材:千葉 みな子
文:所長 馬場 由美子

芝の家・ちゃぶ台日誌 春編

文:芝の家・芝地区総合支所協働推進課



2023年10月に15周年を迎えた芝の家。その記念に「芝の家でぬぐい」をみんなで作る事に。4月～6月にかけて3回に渡り、デザインワークショップを開催しました。どのようなぬぐいが出来上がるかな?お楽しみに!



どなたでも自由に入出りできる「まちの交流拠点」芝の家。日々近所の方から遠方の方まで、年代も0歳～学生～シニア世代の方まで、多種多様な方が立ち寄ります。

芝の家の日常とイベントなどをご紹介します。どのイベントも、どなたでも参加できますので、お気軽にお越しください。詳細はホームページをご覧ください。



4/29クリーンゲイ「チャリティフリマ」を「芝のはらっぱ」で開催しました。

おとな店長、こども店長、様々なお店にたくさんの方が訪れてくださいました。

あちこちからおしゃべりや笑い声が聞こえ、緑に囲まれ、いろいろないい香りに包まれた空間はそこにいるだけでほっこりしました。

今回は売り上げのほぼ全額を能登半島地震支援に寄付をしました。

秋にもまた開催できたらいいな、と相談しています。



「もぐもぐ」を始めました。

お米の寄付をいただいたことをきっかけに、ご飯を炊いてみんなで一緒に食べる時間を始めました。ご飯だけで、おかずはご用意しておりませんが、季節によっては芝のはらっぱで収穫できたお野菜が並ぶことも!

食卓を囲む時間に子どもも大人も笑顔がいっぱい会話が弾むひとときです。

一 夏に向けての芝の家

この夏も夜オープンを試みようと思います。

昼間の猛暑を避けて少し涼しくなった時間からオープンの芝の家。夏にしか味わえない?芝の家にも是非!



INFORMATION

芝の家 芝3-26-8 TEL 03-3453-0474

〈開室日時〉火～金 11:00～16:00/土※ 12:00～17:00

※芝のはらっぱ活動日を除く

〈休館日〉日・月・祝 <http://www.shibanoie.net>

開室時間は変更が生じる場合もあります。
最新の情報はホームページや掲示板をご覧ください。

芝の家は、芝地区の地域事業「地域をつなぐ!交流の場づくりプロジェクト」の拠点。港区芝地区総合支所と慶應義塾大学の協働で始まり、事務局スタッフとボランティアスタッフが日々の場を運営しています。姉妹拠点「ご近所ラボ新橋」(港区新橋6-4-2)と合わせてお気軽にお立ち寄りください。

